

大山不動と高蔵神社の文化財解説

大山不動尊(大山寺)と高蔵神社の概要 (鴨川市平塚 1723)

大山不動の名で知られる高蔵山大山寺は神亀元(724)年に良弁僧正が開山したと伝えられる。相模大山不動、成田不動と並ぶ関東三大不動ともいわれ、雨乞いの霊地として地域の人々から厚く信仰されてきた。源頼朝、足利尊氏、里見氏の信仰を受け栄えたが、天正期の戦乱で衰退したため天正14(1586)年に再興。その後享和2(1802)年にも再建された。江戸時代は天台宗聖護院(京都市)末の修験寺で、修験道の廃止により明治5(1872)年に真言宗となるも、庶民に浸透した修験道の思想は講となって今も受け継がれている。また、大山寺の別当だった安田家には大山寺の歴史や信仰を伝える資料が「安田文書」(県指定)として残されている。高蔵山山頂にある高蔵神社(石尊様)は大山寺と共に良弁僧正が創建しており、幕末まで大山寺が別当寺だった。源頼朝や足利尊氏が水田を寄進、社殿及び石段を築造したと伝える。天保11(1840)年に正一位石尊大権現高蔵神社と称し、明治6(1873)年に長狭21村(大山・主基・吉尾)の郷社となった。県指定の北風原の稲敷舞は大山不動に奉納された雨乞祭である。南北朝の動乱で戦死した人々の供養のために足利尊氏が諸国に建立した利生塔は、安房国では大山寺に造立された。同じく安国寺は鴨川市北風原にある。

① 高蔵神社表参道の鳥居と社号碑

嘉永7(1854)年9月に奈良林村中を願主として寄進された。脚元には建立年と世話人・石工など16名の名がある。鳥居の手前に天保11(1840)年に称を許された「勅正一位多加久良神社」の碑がある。

② 滝本堂跡

かつて存在した修験の寺。安房国札観音巡礼第34番札所の長徳院滝本観音堂としてここにあったが、明治以降荒廃し、昭和30(1955)年に本尊千手観音菩薩立像を大山寺不動堂内に移して廃寺となった。

③ 仁王門

朱色の入母屋造りの山門。関東大震災で倒壊したが後に再建された。震災による被害を受けなかった木造仁王像が祀られている。

④ 表参道石段寄進碑

最上段の左右に天保3(1832)年に奉納した石段に関する石造物の一部基礎がある。途中にも明治25(1892)年に石段275段の修復を記念した一対の碑があり、ともに発起人や寄進者名などが記されている。

⑤ 羊水舎

三代後藤義光作とされる木鼻の坂向き獅子がつく。奥には役行者像が安置されており、銘はないが元名村の武田石翁作と伝えられている。

⑥ 鐘楼堂 鴨川市指定有形文化財

不動堂よりも古く、江戸時代中期の建築と推定されている。柱の丸い土台に特徴があり、軒の四面にはそれぞれの方向に対応した十二支の動物が彫られている。梵鐘は昭和35(1960)年に新鑄造された。

⑦ 常夜灯

棒と火袋には昭和58年とあるが、基壇にはそれよりも古いものが使われている。⑩戦没者碑の前に1基置かれた元の棹から、大山寺38世法印文喬のとき文政2(1819)年に建てられたものであることがわかる。

⑧ 不動堂 千葉県指定有形文化財

五間四方の堂は享和2(1802)年の再建。宮彫師による装飾彫刻が施された厨子も同時期の再建とされ、中に県指定の木造不動明王坐像と袴纏羅・制吒迦の両童子脇侍立像(鎌倉後期)が祀られている。不動堂再建と前後して、鏡天井には龍図と飛天一對(狩野洞水面 内陣天井面は寛政11・1799年の同人作)が描かれ、鴨居の上には右から順に絵馬「西王母図」(藤原道貞畫)と「文覚上人靈驗図」、句額「奉納俳諧四季之発句」(享和3・1803年)が奉納されている。これらは本尊不動明王と共に修験の寺としての霊験のあらたかさと人々の信仰を今に伝えている。句額は前原町名主の高梨徐來が発願主となり、俳友の尾崎鳥周らにより奉納されたものである。なお堂内には、十王像(元和6・1620年)、安房三十六不動尊巡礼の第36番結願ご詠歌額(大正6・1917年)、恵比寿・大黒天像、聖徳太子孝養像、かつて②にあった千手観音菩薩立像(江戸時代)など様々な信仰対象が祀られている。

⑨ 不動堂向拝彫刻

唐破風にある雨乞い神事の象徴としての怒濤の波と水柱に雲、さらに二体の龍のほか、木鼻、手扶みなどにある彫刻は、武志伊八郎信由(初代伊八)の作。享和の本堂再建時に近郷の53人が寄進した。

⑩ 西南戦争従軍戦没者碑(従軍戦死十四人碑)

明治10(1877)年2月に始まった西南戦争に長狭・朝夷の二郡から政府軍に従軍し、うち14名が戦死した事を記した顕彰碑。題字は初代千葉県令榮原和。撰文は千葉県警部の藤田九萬。石工は江戸一番の碑銘彫刻師である広群鶴。戦死した14名の名は刻まれている。

⑪ 蛭保竹澤堂の碑

昭和7(1932)年、全国蛭業関係官民有志が建立。竹澤堂は地元古畑の生まれで、明治26(1893)年に上京し『蛭業新報』を刊行。蛭を野外や土室の中で飼う新しい方法を考案した人物。題字は嶺山 満の揮毫。

⑫ 飯綱権現祠

厨子の中に、白狐に乗った鳥天狗の像が祀られている。形態から飯綱権現を勧請したもので、不動明王を本地にするとされる神である。

⑬ 神変大菩薩謚号碑

神変大菩薩は役行者(役小角)の尊称で、光格天皇が寛政11(1799)年の役行者1100年遠忌の際に、神変大菩薩の謚をしたことを記念した碑。基礎の正面に獅子、側面には願主の人名・寺院名等が記されている。

⑭ 宝篋印塔

大山寺38世榮乗の母と住職安田家の娘おさんが本願となり、悉地院18世法印権大僧都宥長が勸化導師となり、延享4(1747)年に建立した。

⑮ 大乘妙典書写供養塔および経塚

大山寺38世法印文喬が文政6(1823)年に建立した法華経書写の供養塔。先師榮光が小石に法華経を書写して埋納することを志願し、五老尊師の要請で文喬が引き継いだ。石経を埋めた経塚は高蔵神社社殿前にある。

⑯ 出羽三山碑

享保11(1726)年に三王院法師良恵が本願となって建立。中央に「月山」右に「湯殿山」左に「羽黒山」とあり、その下に梵字で大日如来真言がある。大山の4名と平塚村の2名の名は三山講の講中であろう。

⑰ 石段寄進碑

高倉神社石段を文政9(1826)年に寄進した碑。平塚村の願主・世話人の名がある。石段親柱には万延元(1860)年の修理願主等の名も刻されている。

⑱ 大山保存林記念碑

雨乞い祭を継続してきた大山を、公園として保存するため山林が寄付されたことを記念した碑。明治36(1903)年建立。題字は郵便の父前島密。撰文は元住職で衆議院議員の安田勲、書は辻茂茂、石工は村上寅之助。

⑲ 観音の碑(8基)

石尊様に奉納した観音の碑で、施主は平塚村の講中。「石尊御宝前」と刻された6基の石碑には、天人文天尊などの古い天台六観音の名が記され、他の2基には観音經の偈(仏教詩)や殺生・女人禁制の文言が記される。

⑳ 富士浅間祠(3基)

右側の浅間碑は、山水講中の一等修行者「来山参行(小原治右衛門)」が、明治32(1899)年に富士登山50度大願成就したのを記念して建てたもの。他に浅間神社(明治11年)・小御嶽大神(明治期)の祠がある。

㉑ 高蔵神社および灯籠

雨乞い祈願所として数々の話が残されている神社。大正期には祭典後に雨乞いの稲敷舞が演じられたが、現在は当番区によって獅子舞が演じられている。また社前にある灯籠には荒川村・上の銘があり、近隣広域にわたって信仰の拡がりがあったことが窺われる。

㉒ 開山良弁大僧正旧跡碑

文化14(1817)年、37世権大僧都法印榮光による建立。銘には、良弁僧正が東国下向の折、伊勢原の大山から東方の空にたなびく紫雲を見て、それに導かれるようにして、この平塚の大山にたどりつき、大山寺を靈山として開くことになったという由来が刻されている。

㉓ 宝篋印塔 鴨川市指定文化財

文和2(1353)年造立のほぼ完形の宝篋印塔で、千葉県内では最古の部類に位置付けられる。関東型の宝篋印塔。

㉔ 火産靈神碑

火伏の神様であり、伊弉諾命・伊弉冉命の最後の御子神である。両脇の奥津比古神と、奥津比賣神は台所・かまどの神様と言われる。

㉕ 平塚参道不動明王像

平塚地区からの参道に木製の鳥居があり、脇に大山寺不動尊の前不動として不動明王坐像が安置されている。文政3(1820)年、平塚村名主の内木直右衛門が願主となり、平塚地区の人々により造立された。

作成：ミュージアムサポーター「絵図士」 <愛沢香苗・青木悦子・青木徳雄・刑部昭一・金久ひろみ・川崎一・佐藤博秋・佐藤靖子

鈴木以久枝・鈴木正・殿岡崇浩・羽山文子・山杉博子>

監修 館山市立博物館 〒294-0036 館山市館山351-2 (2017年2月発行)